短 歌

今井 清 選

0

サックスを提げて滋賀から里帰りの級友かこみ「ふるさと」唄う

【評】 同窓会の歌は毎月多いが大概没。 「なつかしい」 などの言葉を遣 野口

わずに雰囲気が出ている。

今日ひと日降りみ降らずみ日の暮れに車連なりライトの光る 【評】「~み~み」は口語では「~たり~なかったり」。梅雨時の情感 栗原ヤエ子

がある。古語を駆使するのも創作の楽しみである。

舌口を傷つけ甘し 泡立ちてグラスのシュールなサイダー飲めば

の

遠矢

予定どほり家事をてきぱきこなす日は心晴ればれ時の過ぎ行 漂える黄砂をからめて落ちてくる雨音なれど畑潤う 里 直井 正子

純白の紫陽花のはな溢れ咲く花嫁ドレスの無垢なる様に 掛 倉持かよ子

この線に沿って内側に折りたたんで下さい。

アメフトの学徒の叫びひしひしとかのわだつみの特攻に に擬す 木村

身に着ける亡母の着物はあさぎ色夢の中でもつなぐ手温し 平八新田 古岡 耿

藤井

わが軒に今日も旋回続けゐてつばめの巣の位置なほ定まらず 跿 内海

古稀の身に庭木せん定荷の重し妻のおだてに渋々と伐る

内野山

木村

早朝のカボチャの花の交配を我より早く蜂がしている 息災を願いて来たる水無月の雨引山にあじさい清し 作 富山久美子

下総の島の薬師の寺の鐘朝靄深き青田に響く **与村勝三郎** 五十嵐三男

職希望月の前月20日までに届くように選者宛にお送りください。 「お休かさせていただきます。」 「お休される方は、住所・ 、俳句につきましては、当面の・年齢・電話番号を記入し、掲

〒306-0604 幸田新田435

20297(35)2864

ろ り L

職	業			電話都	番号	
お 名 	前			Ę	男・女	掃
住 ——						
あなが	きの					
		············ 〒	 	 		

民 市 0 畵

≫∂

の ŋ L ろ